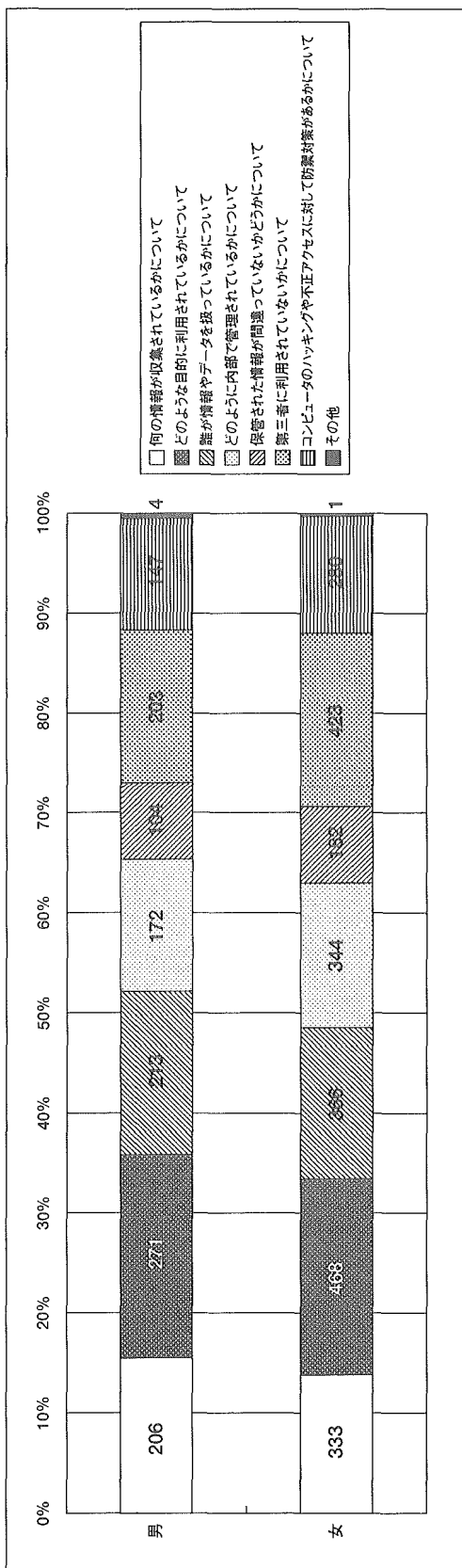
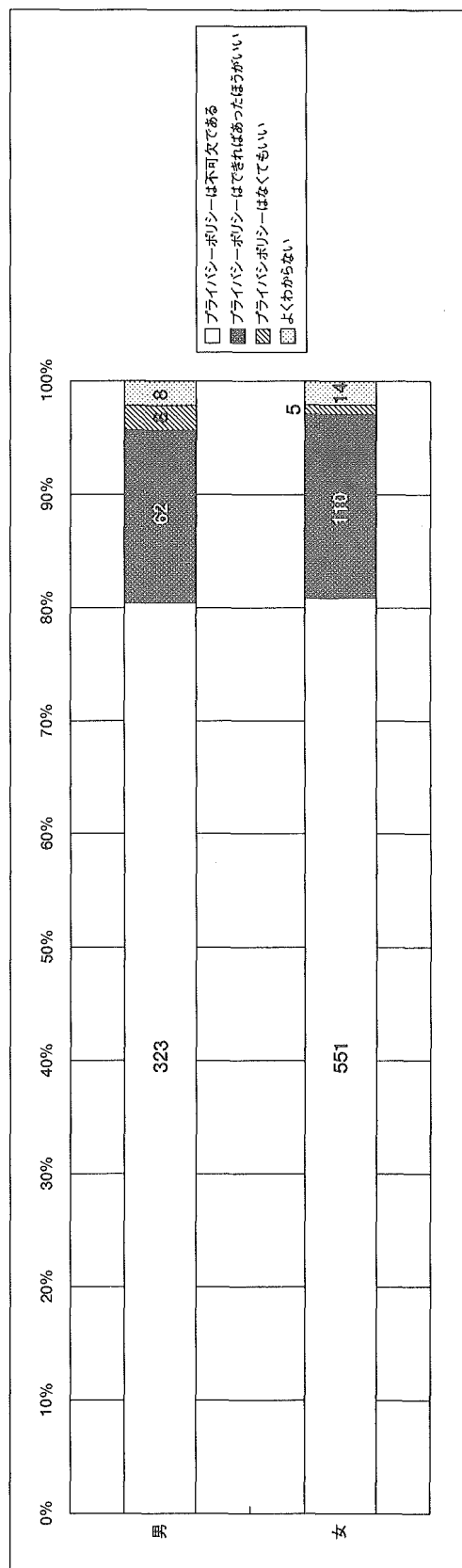


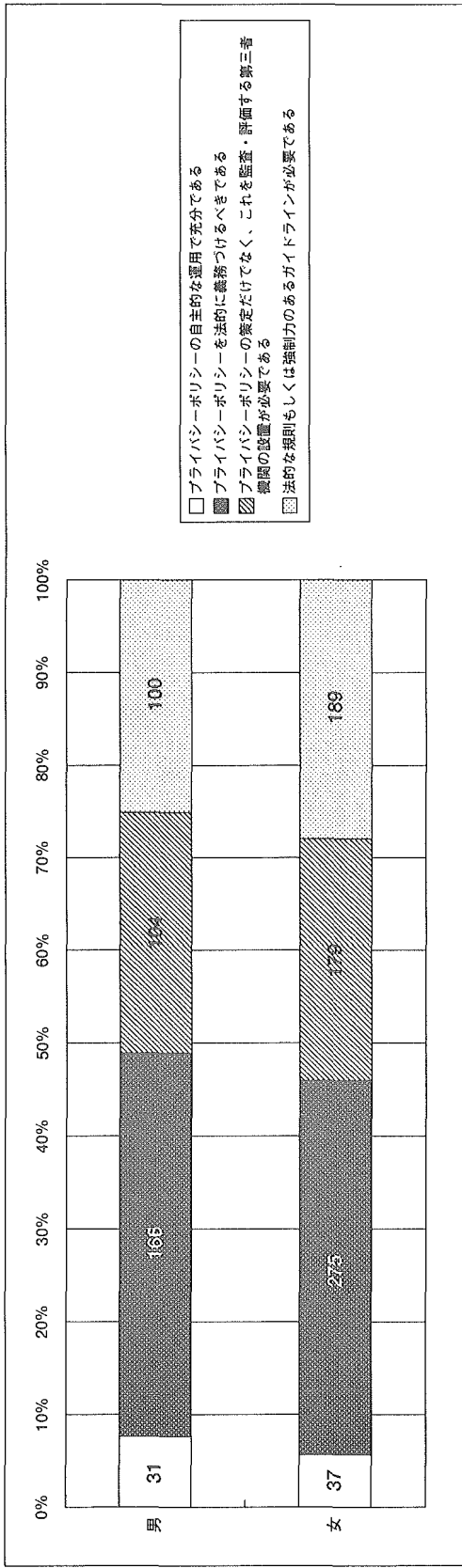
◆「非常に興味がある」「まあまあ興味がある」とされた方へどのようなことに関心がありますか？×性別



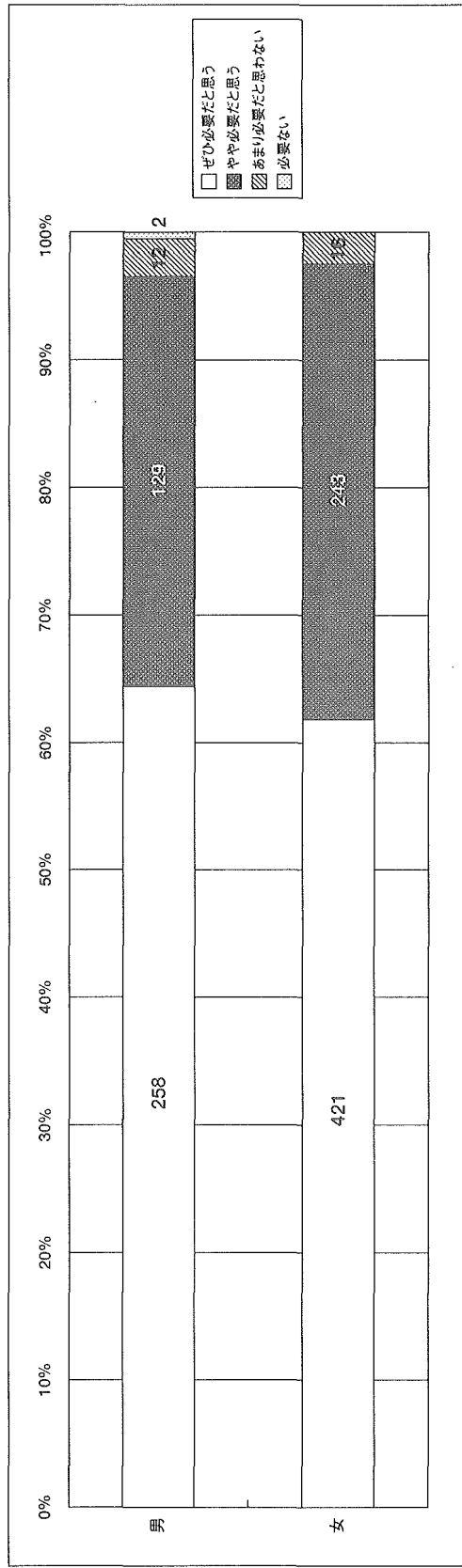
■問15 医療機関や企業が、インターネットで個人の医療(健康)情報を扱う場合は、このプライバシーポリシーが必要だと思われませんか？×性別



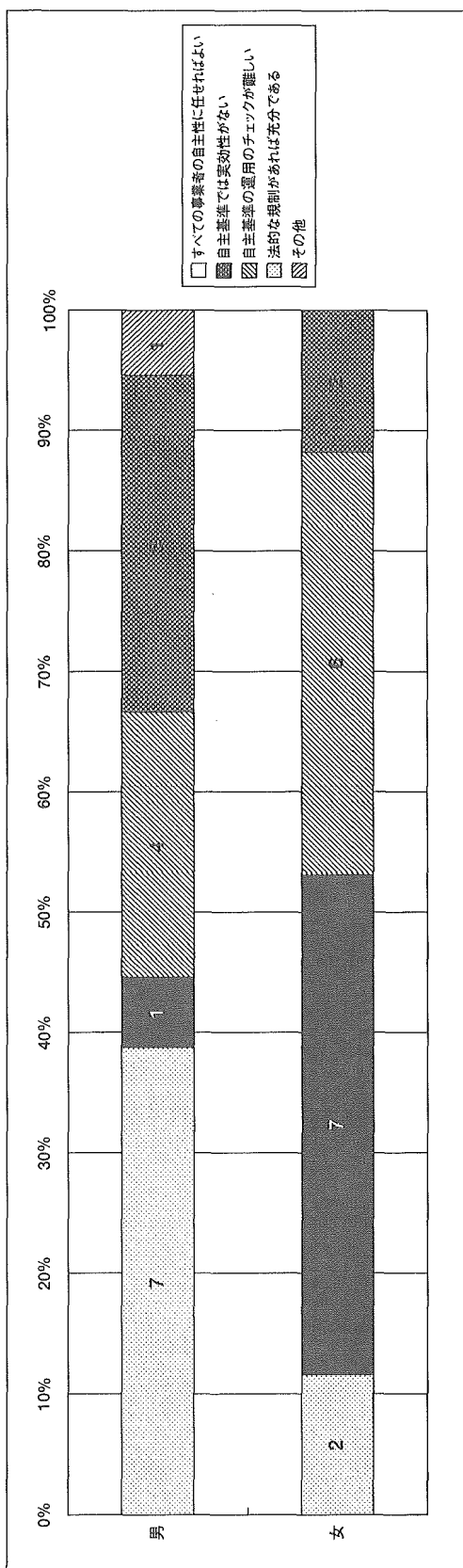
問16 プライバシーポリシーの自主的な運用に加えて、これをチェックする第三者機関や法的な規則などの対策が必要だと思われませんか？ × 性別



問17 倫理規範もしくはガイドラインについてどう思われますか？ × 性別



◆ 「あまり必要だと思わない」「必要ない」とされた理由は何ですか？ × 性別



## 資料1.3. 疾患別によるクロス集計結果

### 1.3. 疾患別によるクロス集計結果

回答者のうち、高血圧、糖尿病、アトピー性皮膚炎、喘息、胃がん・乳がん・大腸がんの疾患別のグループに分け、質問項目に対するクロス集計を行った。この項の末尾にグラフを掲示した。

#### 1.3.1 回答者のプロフィール

5疾患の人数の内訳は、全体数1081名に対し、高血圧30.4%、糖尿病20.4%、アトピー性皮膚炎33.4%、喘息24.3%、胃がん・乳がん・大腸がん合計で10.0%であった。一人で複数の疾患を有する場合もあった。

高血圧の疾患における回答者のプロフィールは、平均年齢が41.4歳、年代別の構成比は、20歳以下1.8%、20代14.9%、30代28.0%、40代30.7%、50代16.1%、60代5.8%、70歳以上2.7%であった。男女の構成比は男性47.4%、女性52.6%であった。また、患者本人か家族かの区別は、患者本人51.7%、家族48.3%であった。

糖尿病の疾患における回答者のプロフィールは、平均年齢が38.8歳、年代別の構成比は、20歳以下1.4%、20代21.8%、30代38.2%、40代18.6%、50代10.9%、60代8.6%、70歳以上0.5%であった。男女の構成比は男性48.6%、女性51.4%であった。また、患者本人か家族かの区別は、患者本人43.6%、家族56.4%であった。

アトピー性皮膚炎の疾患における回答者のプロフィールは、平均年齢が33.6歳、年代別の構成比は、20歳以下3.6%、20代27.1%、30代49.6%、40代16.9%、50代2.2%、60代0%、70歳以上0.6%であった。男女の構成比は男性27.7%、女性72.3%であった。また、患者本人か家族かの区別は、患者本人49.9%、家族50.1%であった。

喘息の疾患における回答者のプロフィールは、平均年齢が33.9歳、年代別の構成比は、20歳以下1.9%、20代28.9%、30代49.4%、40代17.1%、50代2.3%、60代0%、70歳以上0.4%であった。男女の構成比は男性24.3%、女性75.7%であった。また、患者本人か家族かの区別は、患者本人51.7%、家族48.3%であった。

胃がん・乳がん・大腸がんの疾患における回答者のプロフィールは、平均年齢が38.1歳、年代別の構成比は、20歳以下0.9%、20代19.4%、30代40.7%、40代26.9%、50代8.3%、60代2.8%、70歳以上0.9%であった。男女の構成比は男性29.6%、女性70.4%であった。また、患者本人か家族かの区別は、患者本人22.2%、家族77.8%であった。

#### 1.3.2 インターネットへの接続方法

主なインターネットへの接続方法を疾患別に集計した結果を以下に記す。

高血圧の疾患では「モデムまたはISDN利用によるダイヤルアップ接続」54.7%、「ADSLまたはxDSL」20.1%、「CATV」21.3%、「携帯電話またはPHS」0.9%、「光ファイバー」0.6%、その他2.4%であった。

糖尿病の疾患では「モデムまたはISDN利用によるダイヤルアップ接続」51.4%、「ADSLまたはxDSL」24.1%、「CATV」17.3%、「携帯電話またはPHS」2.3%、「光ファイバー」1.4%、その他3.6%であった。

アトピー性皮膚炎の疾患では「モデムまたはISDN利用によるダイヤルアップ接続」52.6%、

「ADSLまたはxDSL」23.3%、「CATV」20.2%、「光ファイバー」1.1%、「携帯電話またはPHS」0.6%、その他2.4%であった。

喘息の疾患では「モデムまたはISDN利用によるダイヤルアップ接続」57.4%、「ADSL または xDSL」20.9%、「CATV」20.9%、「光ファイバー」0.4%、「携帯電話または PHS」0%、その他2.4%であった。

胃がん・乳がん・大腸がんの疾患では「モデムまたはISDN利用によるダイヤルアップ接続」50.0%、「ADSLまたはxDSL」25.0%、「CATV」17.6%、「光ファイバー」1.9 %、「携帯電話または PHS」0.9%、その他4.6%であった。

疾患別の差異は特に認められなかった。

### 1.3.3 よく利用する検索エンジン

医療（健康）情報を検索する時、最もよく利用する検索エンジンとしてあげられたものについて疾患別に集計した結果を以下に記す。

高血圧の疾患では「Yahoo!」63.8%、「Google」11.9%、「MSN」7.0%、「Goo」6.7%、「Infoseek」4.3%、「LYCOS」2.4%、「Netscape」0.6%、その他3.3%であった。

糖尿病の疾患では「Yahoo!」56.8%、「Google」15.5%、「MSN」9.1%、「Goo」7.7%、「Infoseek」5.9%、「LYCOS」2.3%、「Netscape」0%、その他2.7%であった。

アトピー性皮膚炎の疾患では「Yahoo!」60.9%、「Google」13.3%、「Goo」8.6%、「MSN」7.5%、「Infoseek」6.1%、「LYCOS」0.8%、「Netscape」0.6%、その他2.3%であった。

喘息の疾患では「Yahoo!」61.6%、「Google」11.8%、「Goo」8.7%、「MSN」8.4%、「Infoseek」6.5%、「LYCOS」0.8%、「Netscape」0%、その他2.3%であった。

胃がん・乳がん・大腸がんの疾患では「Yahoo!」72.2%、「Google」10.2%、「Goo」9.3%、「MSN」2.8%、「Infoseek」1.9%、「Netscape」0.9%、「LYCOS」0%、その他2.8%であった。

いずれの疾患においても「Yahoo!」が1位であったが、その割合において糖尿病と胃がん・乳がん・大腸がんの疾患において、15.4%の差があった。

### 1.3.4 情報の利用頻度

掲示板やオンライン会議室は除き、「インターネットを利用して病気や薬などに関する情報をどのくらいの頻度で利用されていますか」の問いに対して、疾患別に集計した回答結果を以下に記す。

高血圧の疾患では「ほとんど毎日」7.3%、「1週間に1度以上」16.1%、「1カ月に1～3回」48.3%、「1年に1～数回」28.3%であった。

糖尿病の疾患では「ほとんど毎日」8.6%、「1週間に1度以上」14.5%、「1カ月に1～3回」53.6%、「1年に1～数回」23.2%であった。

アトピー性皮膚炎の疾患では「ほとんど毎日」7.8%、「1週間に1度以上」17.7%、「1カ月に1～3回」44.9%、「1年に1～数回」29.6%であった。

喘息の疾患では「ほとんど毎日」9.5%、「1週間に1度以上」13.7%、「1カ月に1～3回」49.8%、「1年に1～数回」27.0%であった。

胃がん・乳がん・大腸がんの疾患では「ほとんど毎日」6.5 %、「1週間に1度以上」20.4%、「1カ月に1～3回」52.8%、「1年に1～数回」20.4%であった。

疾患別の大きな差異はなかったが、「ほとんど毎日」「1週間に1度以上」「1カ月に1～3回」を合わ

せた利用頻度については、胃がん・乳がん・大腸がんの疾患における割合が高かった。

### 1.3.5 利用情報について

「利用している情報」について、疾患別に集計した結果を以下に記す（複数回答）。

高血圧の疾患では「病気に関する一般的情報」75.1%、「病気の治療法に関する情報」54.4%、「薬に関する情報」54.1%、「医療機関に関する情報」30.7%、「同じ患者の体験情報」28.3%、「QOL（生活の質）に関する情報」10.6%、「医師に関する情報」6.1%、その他1.5%であった。

糖尿病の疾患では「病気に関する一般的情報」73.6%、「病気の治療法に関する情報」58.2%、「薬に関する情報」51.8%、「医療機関に関する情報」32.3%、「同じ患者の体験情報」30.9%、「QOL（生活の質）に関する情報」9.1%、「医師に関する情報」9.1%、その他3.6%であった。

アトピー性皮膚炎の疾患では「病気に関する一般的情報」75.6%、「病気の治療法に関する情報」64.0%、「薬に関する情報」59.0%、「医療機関に関する情報」34.3%、「同じ患者の体験情報」33.8%、「医師に関する情報」8.3%、「QOL（生活の質）に関する情報」5.8%、その他1.4%であった。

喘息の疾患では「病気に関する一般的情報」73.8%、「薬に関する情報」66.5%、「病気の治療法に関する情報」65.4%、「医療機関に関する情報」35.0%、「同じ患者の体験情報」33.8%、「医師に関する情報」6.5%、「QOL（生活の質）に関する情報」6.1%、その他3.0%であった。

胃がん・乳がん・大腸がんの疾患では「病気に関する一般的情報」75.9%、「病気の治療法に関する情報」56.5%、「薬に関する情報」44.4%、「医療機関に関する情報」40.7%、「同じ患者の体験情報」37.0%、「医師に関する情報」12.0%、「QOL（生活の質）に関する情報」4.6%、その他0.9%であった。

いずれの疾患においても、「病気に関する一般的情報」や「病気の治療法に関する情報」が上位にあげられていたが、高血圧や糖尿病のような生活習慣病とされる慢性疾患においては、「QOL（生活の質）に関する情報」が相対的に高く、また、胃がん・乳がん・大腸がんのような手術療法を必要とする疾患においては、「医療機関に関する情報」や「医師に関する情報」が相対的に高いことが示された。

### 1.3.6 利用情報の信頼性

「利用されている情報は全体的にみて、信頼できると思いますか」の問いに対して、疾患別に集計した回答結果を以下に記す。

高血圧の疾患では「かなり信頼できる」11.6%、「まあまあ信頼できる」81.5%、「あまり信頼できない」7.0%、「ほとんど信頼できない」0%であった。

糖尿病の疾患では「かなり信頼できる」8.6%、「まあまあ信頼できる」84.5%、「あまり信頼できない」6.4%、「ほとんど信頼できない」0.5%であった。

アトピー性皮膚炎の疾患では「かなり信頼できる」8.3%、「まあまあ信頼できる」81.2%、「あまり信頼できない」10.2%、「ほとんど信頼できない」0.3%であった。

喘息の疾患では「かなり信頼できる」8.4%、「まあまあ信頼できる」86.7%、「あまり信頼できない」4.6%、「ほとんど信頼できない」0.4%であった。

胃がん・乳がん・大腸がんの疾患では「かなり信頼できる」7.4%、「まあまあ信頼できる」82.4%、「あまり信頼できない」10.2%、「ほとんど信頼できない」0%であった。

疾患別にみると、「かなり信頼できる」と「まあまあ信頼できる」の合計は全般的に高いものの、

アトピー性皮膚炎と胃がん・乳がん・大腸がんが、それぞれ89.5%、89.8%と低く、喘息では93.1%と高かった。

### 1.3.7 信頼できない理由

利用している情報が、「あまり信頼できない」「ほとんど信頼できない」と回答した人81名のうち、不明の1名を除いた80名にその理由を尋ねた。疾患別の集計した回答結果を以下に記す（複数回答）。

高血圧の疾患では「情報の中身の確かさがわからない」47.8%、「情報の質が低い」34.8%、「情報量が少ない」30.4%、「情報量が多すぎる」17.4%、その他8.7%であった。

糖尿病の疾患では「情報の中身の確かさがわからない」66.7%、「情報の質が低い」40.0%、「情報量が少ない」40.0%、「情報量が多すぎる」0%、その他6.7%であった。

アトピー性皮膚炎疾患では「情報の中身の確かさがわからない」60.5%、「情報の質が低い」28.9%、「情報量が少ない」28.9%、「情報量が多すぎる」21.1%、その他13.2%であった。

喘息の疾患では「情報の中身の確かさがわからない」50.0%、「情報量が少ない」41.7%、「情報の質が低い」33.3%、「情報量が多すぎる」25.0%、その他8.3%であった。

胃がん・乳がん・大腸がんの疾患では、「情報の中身の確かさがわからない」81.8%、「情報量が少ない」54.5%、「情報の質が低い」18.2%、「情報量が多すぎる」9.1%、その他0%であった。

疾患別の比較では、いずれの疾患においても、「情報の中身の確かさがわからない」が1位になったが、特に胃がん・乳がん・大腸がんでは高かった。また、「情報量が少ない」ことをあげたのは、胃がん・乳がん・大腸がんにおいて最も高く、反対に「情報量が多すぎる」ことをあげたのは、アトピー性皮膚炎においてであった。

### 1.3.8 信頼できるウェブサイト

利用している情報が、「かなり信頼できる」「まあまあ信頼できる」と回答した人1,000名のうち、不明の10名を除いた990名にどのようなウェブサイトが提供する情報が信頼できるかについて上位5つをあげてもらった。疾患別の集計した回答結果を以下に記す（複数回答）。

高血圧の疾患では「大学病院、国立病院」54.0%、「公的な研究機関」46.9%、「民間の医療情報提供会社」40.9%、「厚生省などの国の機関」35.0%、「診療所・クリニック」34.3%、「製薬メーカー」34.3%、「患者（個人または団体）」30.7%、「医師会」29.7%、「地域の中核病院」26.7%、「保健所」20.8%、「薬剤師」13.5%、その他1.9%であった。

糖尿病の疾患では「大学病院、国立病院」52.0%、「公的な研究機関」48.5%、「患者（個人または団体）」38.6%、「民間の医療情報提供会社」36.1%、「診療所・クリニック」34.7%、「厚生省などの国の機関」33.2%、「製薬メーカー」29.7%、「医師会」23.8%、「地域の中核病院」21.8%、「保健所」19.3%、「薬剤師」12.4%、その他1.0%であった。

アトピー性皮膚炎の疾患では「公的な研究機関」41.1%、「診療所・クリニック」40.4%、「大学病院、国立病院」39.5%、「患者（個人または団体）」37.3%、「民間の医療情報提供会社」35.1%、「製薬メーカー」32.9%、「厚生省などの国の機関」30.4%、「地域の中核病院」21.9%、「医師会」21.3%、「保健所」18.2%、「薬剤師」15.4%、その他2.5%であった。

喘息の疾患では「大学病院、国立病院」42.6%、「患者（個人または団体）」40.2%、「診療所・クリニック」38.6%、「公的な研究機関」37.3%、「民間の医療情報提供会社」37.3%、「製薬メーカー」29.7%、「厚生省などの国の機関」26.1%、「地域の中核病院」26.1%、「医師会」22.9%、「保健所」14.9%、「薬剤師」11.6%、その他4.4%であった。

胃がん・乳がん・大腸がんの疾患では「公的な研究機関」58.3%、「患者（個人または団体）」50.0%、「大学病院、国立病院」45.8%、「民間の医療情報提供会社」40.6%、「製薬メーカー」26.0%、「保健所」25.0%、「厚生省などの国の機関」24.0%、「医師会」24.0%、「診療所・クリニック」20.8%、「地域の中核病院」14.6%、「薬剤師」9.4%、その他0%であった。

疾患別の比較では、信頼できるとするウェブサイトについて差異が認められた。高血圧、糖尿病、喘息では「大学病院、国立病院」が、アトピー性皮膚炎と胃がん・乳がん・大腸がんでは「公的な研究機関」が1位にあげられた。また、「診療所・クリニック」をみると、アトピー性皮膚炎では2位にあげられているが、胃がん・乳がん・大腸がんでは、9位に落ちている。胃がん・乳がん・大腸がんにおいて、「患者（個人または団体）」が「公的な研究機関」に次いで2位にあげられていることが目立った。

### 1.3.9 情報内容の信頼性の基準

情報を利用する時、内容の信頼性の基準としてどのような点に留意しているかに関し、「信頼できる」と思われる要素の中で重要なものは何かと尋ねた問いに対し、疾患別に集計した回答結果を以下に記す（複数回答）。

高血圧の疾患では「実在する医療機関が提供する情報である」58.4%、「公的な機関が提供する情報である」51.1%、「医師または医師団体が提供する情報である」47.4%、「患者（団体）が提供する情報である」39.2%、「薬をつくっている製薬メーカー自身が提供する情報である」31.9%、「薬剤師が提供する情報である」22.2%、その他2.7%であった。

糖尿病の疾患では「実在する医療機関が提供する情報である」58.6%、「公的な機関が提供する情報である」55.5%、「医師または医師団体が提供する情報である」44.5%、「患者（団体）が提供する情報である」41.8%、「薬をつくっている製薬メーカー自身が提供する情報である」27.3%、「薬剤師が提供する情報である」17.7%、その他0.5%であった。

アトピー性皮膚炎の疾患では「実在する医療機関が提供する情報である」51.5%、「患者（団体）が提供する情報である」50.7%、「医師または医師団体が提供する情報である」47.6%、「公的な機関が提供する情報である」47.1%、「薬をつくっている製薬メーカー自身が提供する情報である」29.4%、「薬剤師が提供する情報である」19.4%、その他3.0%であった。

喘息の疾患では「実在する医療機関が提供する情報である」51.3%、「医師または医師団体が提供する情報である」51.0%、「患者（団体）が提供する情報である」47.9%、「公的な機関が提供する情報である」43.3%、「薬をつくっている製薬メーカー自身が提供する情報である」28.9%、「薬剤師が提供する情報である」16.0%、その他4.6%であった。

胃がん・乳がん・大腸がんの疾患では「実在する医療機関が提供する情報である」60.2%、「患者（団体）が提供する情報である」48.1%、「公的な機関が提供する情報である」48.1%、「医師または医師団体が提供する情報である」47.2%、「薬をつくっている製薬メーカー自身が提供する情報である」20.4%、「薬剤師が提供する情報である」14.8%、その他0.9%であった。

疾患別の比較では、「実在する医療機関が提供する情報である」がいずれも1位にあげられたが、アトピー性皮膚炎と胃がん・乳がん・大腸がんでは、「患者（団体）が提供する情報である」ことが2位にあげられていた。

### 1.3.10 情報の信頼性を損ねる要因

情報を利用する時、利用者側からみて「信頼性を損ねる」要因は何かと尋ねた問いに対し、疾患



別に集計した回答結果を以下に記す（複数回答）。

高血圧の疾患では「誰が情報提供者かよくわからない」69.6%、「情報が一方的で偏っている」60.2%、「情報提供に営利的な要素がからんでいる」56.2%、「情報の作成日が古い」44.1%、「裏付けとなる文献・資料など、情報の出所が不明である」43.8%、「営利企業が提供している」38.3%、「情報に科学性、客観性がない」35.3%、「専門家の監修を経ていない」28.0%、「情報の作成日が不明である」24.6%、その他1.7%であった。

糖尿病の疾患では「誰が情報提供者かよくわからない」67.3%、「情報提供に営利的な要素がからんでいる」59.5%、「情報が一方的で偏っている」54.5%、「裏付けとなる文献・資料など、情報の出所が不明である」44.1%、「情報に科学性、客観性がない」40.9%、「営利企業が提供している」40.5%、「情報の作成日が古い」40.5%、「専門家の監修を経ていない」27.3%、「情報の作成日が不明である」21.4%、その他1.7%であった。

アトピー性皮膚炎の疾患では「誰が情報提供者かよくわからない」67.6%、「情報が一方的で偏っている」65.4%、「情報提供に営利的な要素がからんでいる」62.6%、「裏付けとなる文献・資料など、情報の出所が不明である」46.8%、「営利企業が提供している」45.4%、「情報の作成日が古い」45.2%、「情報に科学性、客観性がない」37.7%、「専門家の監修を経ていない」23.3%、「情報の作成日が不明である」28.3%、その他0.8%であった。

喘息の疾患では「情報が一方的で偏っている」66.5%、「誰が情報提供者かよくわからない」62.4%、「情報提供に営利的な要素がからんでいる」58.9%、「情報の作成日が古い」46.4%、「営利企業が提供している」46.0%、「裏付けとなる文献・資料など、情報の出所が不明である」44.5%、「情報に科学性、客観性がない」36.1%、「専門家の監修を経ていない」27.0%、「情報の作成日が不明である」25.9%、その他1.5%であった。

胃がん・乳がん・大腸がんの疾患では「誰が情報提供者かよくわからない」69.4%、「情報提供に営利的な要素がからんでいる」64.8%、「情報が一方的で偏っている」63.9%、「裏付けとなる文献・資料など、情報の出所が不明である」52.8%、「営利企業が提供している」50.0%、「情報の作成日が古い」44.4%、「情報に科学性、客観性がない」38.0%、「専門家の監修を経ていない」33.3%、「情報の作成日が不明である」31.5%、その他0.9%であった。

疾患別の比較では、「誰が情報提供者かよくわからない」や「情報が一方的で偏っている」が首位にあげられたが、胃がん・乳がん・大腸がんでは、「裏付けとなる文献・資料など、情報の出所が不明である」「営利企業が提供している」「情報提供に営利的な要素がからんでいる」が他の疾患に比較して高かった。

### 1.3.11 掲示板やオンライン会議室の利用頻度

インターネット上の掲示板やオンライン会議室の利用頻度について疾患別に集計した結果を以下に記す。

高血圧の疾患では「ほとんど毎日」6.7%、「1週間に1度以上」12.5%、「1カ月に1～3回」32.2%、「1年に1～数回」48.6%であった。

糖尿病の8.6%、「1週間に1度以上」13.6%、「1カ月に1～3回」26.8%、「1年に1～数回」50.9%であった。

アトピー性皮膚炎の疾患では「ほとんど毎日」13.3%、「1週間に1度以上」17.2%、「1カ月に1～3回」29.4%、「1年に1～数回」40.2%であった。

喘息の疾患では「ほとんど毎日」15.2%、「1週間に1度以上」14.4%、「1カ月に1～3回」24.3%、「1年に1～数回」46.0%であった。

胃がん・乳がん・大腸がんの疾患では「ほとんど毎日」9.3%、「1週間に1度以上」19.4%、「1カ月に1～3回」28.7%、「1年に1～数回」42.6%であった。

疾患別の比較では、アトピー性皮膚炎と喘息において、「ほとんど毎日」をあげる割合が高かった一方、高血圧や糖尿病においては「ほとんど毎日」と「1週間に1度以上」をあげる割合は低かった。

### 1.3.12 掲示板やオンライン会議室利用のメリット

掲示板やオンライン会議室を利用するメリット（利点）は何かと尋ねた問いに対し、疾患別に集計した回答結果を以下に記す（複数回答）。

高血圧の疾患では「同じ患者の書き込みから参考情報が得られる」51.7%、「病気や治療法に関する情報が交換できる」50.5%、「医師など専門家の意見をきくことができる」31.6%、「医療機関や医師に関する情報が交換できる」24.3%、「自分の意見を書き込むことができる」17.9%、「コミュニケーションを深めることができる」16.7%、「自分の持っている情報が提供できる」10.9%、その他2.0%であった。

糖尿病の疾患では「同じ患者の書き込みから参考情報が得られる」58.2%、「病気や治療法に関する情報が交換できる」52.7%、「医師など専門家の意見をきくことができる」35.5%、「医療機関や医師に関する情報が交換できる」23.2%、「コミュニケーションを深めることができる」19.1%、「自分の意見を書き込むことができる」16.4%、「自分の持っている情報が提供できる」12.3%、その他2.7%であった。

アトピー性皮膚炎の疾患では「同じ患者の書き込みから参考情報が得られる」68.7%、「病気や治療法に関する情報が交換できる」52.4%、「医師など専門家の意見をきくことができる」33.2%、「医療機関や医師に関する情報が交換できる」26.3%、「コミュニケーションを深めることができる」24.7%、「自分の意見を書き込むことができる」23.8%、「自分の持っている情報が提供できる」15.2%、その他1.7%であった。

喘息の疾患では「同じ患者の書き込みから参考情報が得られる」65.8%、「病気や治療法に関する情報が交換できる」54.4%、「医師など専門家の意見をきくことができる」35.4%、「医療機関や医師に関する情報が交換できる」26.6%、「自分の意見を書き込むことができる」22.1%、「コミュニケーションを深めることができる」20.2%、「自分の持っている情報が提供できる」18.3%、その他3.8%であった。

胃がん・乳がん・大腸がんの疾患では「同じ患者の書き込みから参考情報が得られる」65.7%、「病気や治療法に関する情報が交換できる」51.9%、「医師など専門家の意見をきくことができる」33.3%、「医療機関や医師に関する情報が交換できる」30.6%、「自分の意見を書き込むことができる」22.2%、「コミュニケーションを深めることができる」13.9%、「自分の持っている情報が提供できる」9.3%、その他2.8%であった。

疾患別の比較では、アトピー性皮膚炎、喘息、胃がん・乳がん・大腸がんにおいて、「同じ患者の書き込みから参考情報が得られる」をあげる割合が特に高かった。

### 1.3.13 掲示板やオンライン会議室の利用時の問題点

掲示板やオンライン会議室を利用する時の問題点としてあげられたものについて、疾患別に集計した結果を以下に記す（複数回答）。

高血圧の疾患では「内容に思い込みや偏見がある」53.5%、「営利、広告目的の投稿がある」43.8%、「投稿者の身分、立場がわからない場合がある」40.7%、「感情的なやりとりがある」37.4%、「他人のプライバシーを侵害する投稿がある」26.4%、「投稿者自身のプライバシーが危ないことがある」25.8%、「低俗な表現や乱暴な言葉遣いがある」24.0%、「誹謗、中傷の内容がある」22.5%、「匿名の投稿がある」21.9%、その他3.3%であった。

糖尿病の疾患では「内容に思い込みや偏見がある」53.2%、「営利、広告目的の投稿がある」46.8%、「投稿者の身分、立場がわからない場合がある」38.6%、「感情的なやりとりがある」33.2%、「投稿者自身のプライバシーが危ないことがある」26.4%、「誹謗、中傷の内容がある」24.1%、「他人のプライバシーを侵害する投稿がある」21.4%、「低俗な表現や乱暴な言葉遣いがある」21.4%、「匿名の投稿がある」17.3%、その他1.8%であった。

アトピー性皮膚炎の疾患では「内容に思い込みや偏見がある」55.4%、「営利、広告目的の投稿がある」51.0%、「投稿者の身分、立場がわからない場合がある」42.1%、「感情的なやりとりがある」41.3%、「投稿者自身のプライバシーが危ないことがある」28.8%、「他人のプライバシーを侵害する投稿がある」28.3%、「低俗な表現や乱暴な言葉遣いがある」27.7%、「誹謗、中傷の内容がある」27.1%、「匿名の投稿がある」20.5%、その他1.7%であった。

喘息の疾患では「内容に思い込みや偏見がある」56.7%、「営利、広告目的の投稿がある」46.0%、「感情的なやりとりがある」41.4%、「投稿者の身分、立場がわからない場合がある」40.7%、「誹謗、中傷の内容がある」28.9%、「投稿者自身のプライバシーが危ないことがある」25.1%、「低俗な表現や乱暴な言葉遣いがある」25.1%、「他人のプライバシーを侵害する投稿がある」24.3%、「匿名の投稿がある」20.9%、その他4.6%であった。

胃がん・乳がん・大腸がんの疾患では「内容に思い込みや偏見がある」55.6%、「営利、広告目的の投稿がある」46.3%、「投稿者の身分、立場がわからない場合がある」44.4%、「投稿者自身のプライバシーが危ないことがある」34.3%、「感情的なやりとりがある」31.5%、「他人のプライバシーを侵害する投稿がある」25.9%、「誹謗、中傷の内容がある」24.1%、「低俗な表現や乱暴な言葉遣いがある」17.6%、「匿名の投稿がある」16.7%、その他1.9%であった。

疾患別の比較では、全疾患を通じて、「内容に思い込みや偏見がある」が問題点の一番としてあげられた。アトピー性皮膚炎、喘息においては、「感情的なやりとりがある」が他の疾患よりも高かった。また、胃がん・乳がん・大腸がんにおいては、「投稿者自身のプライバシーが危ないことがある」をあげる割合が他の疾患に比べて高かった。

#### 1.3.14 医療相談の体験

今までにインターネットで医療相談をしたことがあるかどうかを尋ねた問いに対し、疾患別に集計した回答結果を以下に記す。なお、同じ内容で複数回のやりとりは1回とみなした。

高血圧の疾患では「1回利用したことがある」16.4%、「2回以上利用したことがある」11.6%で、両方の合計で、28.0%であった。

糖尿病の疾患では「1回利用したことがある」15.9%、「2回以上利用したことがある」17.3%で、両方の合計で、33.2%であった。

アトピー性皮膚炎の疾患では「1回利用したことがある」19.4%、「2回以上利用したことがある」13.3%で、両方の合計で、32.7%であった。

喘息の疾患では「1回利用したことがある」17.9%、「2回以上利用したことがある」12.2%で、両方の合計で、30.1%であった。

胃がん・乳がん・大腸がんの疾患では「1回利用したことがある」13.9%、「2回以上利用したことがある」15.7%で、両方の合計で、29.6%であった。

疾患別の比較では、医療相談の体験は糖尿病において一番高く、高血圧において一番低かった。

### 1.3.15 医療相談の相手

医療相談を「利用したことがある」と回答した人 310名を対象に、相談の相手がどのような立場の人だったかを尋ねた（複数回答）。回答があった309名のうち、疾患別に集計した回答結果を以下に記す。

高血圧の疾患では「医療機関のサイトや相談ページで直接は知らない医師」64.1%、「民間の医療情報提供会社」22.8%、「患者（団体）」18.5%、「製薬メーカー」13.0%、「薬剤師または薬局」12.0%、「かかりつけの医師」7.6%、「利用している医療機関の他の医師」7.6%、「医療機関のサイトや相談ページで医療従事者ではない人」6.5%、「医療機関のサイトや相談ページで看護婦や検査技師などのコメディカル」6.5%、「保健所職員」2.2%、その他1.1%であった。

糖尿病の疾患では「医療機関のサイトや相談ページで直接は知らない医師」62.5%、「製薬メーカー」23.6%、「患者（団体）」22.2%、「民間の医療情報提供会社」16.7%、「薬剤師または薬局」12.5%、「かかりつけの医師」6.9%、「利用している医療機関の他の医師」4.2%、「医療機関のサイトや相談ページで医療従事者ではない人」4.2%、「医療機関のサイトや相談ページで看護婦や検査技師などのコメディカル」4.2%、「保健所職員」0%、その他2.8%であった。

アトピー性皮膚炎の疾患では「医療機関のサイトや相談ページで直接は知らない医師」67.8%、「民間の医療情報提供会社」16.1%、「患者（団体）」14.4%、「薬剤師または薬局」9.3%、「製薬メーカー」8.5%、「医療機関のサイトや相談ページで医療従事者ではない人」7.6%、「かかりつけの医師」6.8%、「利用している医療機関の他の医師」6.8%、「医療機関のサイトや相談ページで看護婦や検査技師などのコメディカル」6.8%、「保健所職員」0.8%、その他2.5%であった。

喘息の疾患では「医療機関のサイトや相談ページで直接は知らない医師」64.6%、「患者（団体）」25.3%、「民間の医療情報提供会社」19.0%、「利用している医療機関の他の医師」10.1%、「薬剤師または薬局」7.6%、「製薬メーカー」7.6%、「医療機関のサイトや相談ページで看護婦や検査技師などのコメディカル」6.3%、「かかりつけの医師」5.1%、「医療機関のサイトや相談ページで医療従事者ではない人」5.1%、「保健所職員」0%、その他1.3%であった。

胃がん・乳がん・大腸がんの疾患では「医療機関のサイトや相談ページで直接は知らない医師」62.5%、「患者（団体）」25.0%、「かかりつけの医師」18.8%、「民間の医療情報提供会社」18.8%、「製薬メーカー」15.6%、「薬剤師または薬局」12.5%、「利用している医療機関の他の医師」9.4%、「医療機関のサイトや相談ページで医療従事者ではない人」6.3%、「医療機関のサイトや相談ページで看護婦や検査技師などのコメディカル」6.3%、「保健所職員」3.1%、その他3.1%であった。

疾患別の比較では、一番に「医療機関のサイトや相談ページで直接は知らない医師」をあげたものがいずれも6割を超えてい。概して「かかりつけの医師」が低い中でも、胃がん・乳がん・大腸がんでは「かかりつけの医師」をあげるものが高かった。また、「製薬メーカー」をあげるものは、一般的に低い中で、糖尿病において高い割合を示していた。

### 1.3.16 医療相談時の不安

今までの医療相談において、または今後、医療相談などのオンラインでのケアサービスを利用するに際して、利用者側からみて「不安を感じる」のは、どのような場合であるかと尋ねた問いに対

し、疾患別に集計した回答結果を以下に記す（複数回答）。

高血圧の疾患では「相手が本当に実在する医師かどうか確認できない場合」60.5%、「自分の健康データなど個人情報が守られているかわからない場合」60.2%、「得られたアドバイスが正しいものかどうかかわからない場合」57.8%、「相手が医師など医療従事者でない場合」41.3%、その他0.9%であった。

糖尿病の疾患では「自分の健康データなど個人情報が守られているかわからない場合」63.6%、「得られたアドバイスが正しいものかどうかかわからない場合」56.4%、「相手が本当に実在する医師かどうか確認できない場合」56.4%、「相手が医師など医療従事者でない場合」37.3%、その他0%であった。

アトピー性皮膚炎の疾患では「自分の健康データなど個人情報が守られているかわからない場合」64.3%、「得られたアドバイスが正しいものかどうかかわからない場合」60.7%、「相手が本当に実在する医師かどうか確認できない場合」55.4%、「相手が医師など医療従事者でない場合」41.8%、その他2.8%であった。

喘息の疾患では「自分の健康データなど個人情報が守られているかわからない場合」62.4%、「得られたアドバイスが正しいものかどうかかわからない場合」58.6%、「相手が本当に実在する医師かどうか確認できない場合」55.9%、「相手が医師など医療従事者でない場合」40.7%、その他2.3%であった。

胃がん・乳がん・大腸がんの疾患では「得られたアドバイスが正しいものかどうかかわからない場合」62.0%、「相手が本当に実在する医師かどうか確認できない場合」58.3%、「自分の健康データなど個人情報が守られているかわからない場合」53.7%、「相手が医師など医療従事者でない場合」36.1%、その他1.9%であった。

疾患別の比較では、「自分の健康データなど個人情報が守られているかわからない場合」を一番にあげたのが、高血圧、糖尿病、アトピー性皮膚炎、喘息の3疾患であったのに対し、胃がん・乳がん・大腸がんでは「得られたアドバイスが正しいものかどうかかわからない場合」が一番にあげられていた。

### 1.3.17 信頼できる医療相談の相手

オンラインで医療や健康に関する相談する際、信頼できる相手として誰を選ぶかについて、上位3つまであげてもらった。疾患別の集計した回答結果を以下に記す。

高血圧の疾患では「医師」93.6%、「薬剤師」38.0%、「患者（団体）」31.0%、「看護婦・検査技師などのコメディカル」30.7%、「民間の医療情報提供会社」29.8%、「保健所職員」18.5%、「製薬メーカー」12.2%、その他1.2%であった。

糖尿病の疾患では「医師」93.6%、「薬剤師」35.9%、「看護婦・検査技師などのコメディカル」35.5%、「民間の医療情報提供会社」28.6%、「患者（団体）」26.8%、「保健所職員」17.3%、「製薬メーカー」11.4%、その他0.9%であった。

アトピー性皮膚炎の疾患では「医師」91.7%、「薬剤師」40.4%、「患者（団体）」33.2%、「看護婦・検査技師などのコメディカル」32.1%、「民間の医療情報提供会社」26.9%、「保健所職員」15.0%、「製薬メーカー」10.8%、その他1.1%であった。

喘息の疾患では「医師」93.5%、「患者（団体）」40.7%、「薬剤師」35.0%、「看護婦・検査技師などのコメディカル」30.8%、「民間の医療情報提供会社」24.3%、「保健所職員」14.8%、「製薬メー

カー」11.0%、その他2.7%であった。

胃がん・乳がん・大腸がんの疾患では「医師」91.7%、「民間の医療情報提供会社」40.7%、「看護婦・検査技師などのコメディカル」34.3%、「患者（団体）」33.3%、「薬剤師」30.6%、「保健所職員」15.7%、「製薬メーカー」14.8%、その他1.9%であった。

疾患別の比較では、いずれの疾患においても9割以上が相談相手として「医師」を選んでしたが、喘息においては「患者（団体）」が、また胃がん・乳がん・大腸がんにおいては「民間の医療情報提供会社」が、他の疾患よりも高い割合を示し、「医師」に次ぐ順位に位置していたことが目立った。

### 1.3.18 個人の医療（健康）情報への取り扱いへの関心

インターネットの普及でプライバシー性の高い個人の医療（健康）情報が、さまざまに流通・利用されるようになっていくことに関し、個人の医療（健康）情報がどう扱われていくかについて関心の程度を尋ねた問いに対し、疾患別に集計した回答結果を以下に記す。

高血圧の疾患では「非常に関心がある」31.3%、「まあまあ関心がある」58.1%、「あまり関心はない」10.3%、「まったく関心はない」0.3%であった。「非常に関心がある」と「まあまあ関心がある」を合わせた割合は、89.4%であった。

糖尿病の疾患では「非常に関心がある」34.5%、「まあまあ関心がある」54.5%、「あまり関心はない」10.9%、「まったく関心はない」0%であった。「非常に関心がある」と「まあまあ関心がある」を合わせた割合は、89.0%であった。

アトピー性皮膚炎の疾患では「非常に関心がある」38.0%、「まあまあ関心がある」52.9%、「あまり関心はない」9.1%、「まったく関心はない」0%であった。「非常に関心がある」と「まあまあ関心がある」を合わせた割合は、90.9%であった。

喘息の疾患では「非常に関心がある」39.9%、「まあまあ関心がある」51.0%、「あまり関心はない」8.7%、「まったく関心はない」0.4%であった。「非常に関心がある」と「まあまあ関心がある」を合わせた割合は、90.9%であった。

胃がん・乳がん・大腸がんの疾患では「非常に関心がある」29.6%、「まあまあ関心がある」62.0%、「あまり関心はない」8.3%、「まったく関心はない」0%であった。「非常に関心がある」と「まあまあ関心がある」を合わせた割合は、91.6%であった。

疾患別の比較では、いずれの疾患においても「非常に関心がある」と「まあまあ関心がある」を合わせた割合が9割前後という高い数字を示していたが、「非常に関心がある」だけみると喘息が一番高かった。

### 1.3.19 関心の内容について

前問で、「非常に関心がある」「まあまあ関心がある」と回答した968名を対象に、どのようなことに関心があるかを尋ねた。回答があった963名のうち、疾患別に集計した回答結果を以下に記す（複数回答）。

高血圧の疾患では「どのような目的に利用されているかについて」73.1%、「第三者に利用されていないかについて」61.9%、「何の情報が収集されているかについて」55.1%、「誰が情報やデータを扱っているかについて」54.1%、「どのように内部で管理されているかについて」51.4%、「コンピュータのハッキングや不正アクセスに対して防衛対策があるかについて」41.5%、「保管された情報が間違っていないかどうかについて」31.3%、その他0%であった。

糖尿病の疾患では「どのような目的に利用されているかについて」75.3%、「第三者に利用されていないかについて」66.5%、「誰が情報やデータを扱っているかについて」59.3%、「何の情報が収集されているかについて」55.7%、「どのように内部で管理されているかについて」53.6%、「コンピュータのハッキングや不正アクセスに対して防禦対策があるかについて」44.3%、「保管された情報が間違っていないかどうかについて」27.8%、その他0.5%であった。アトピー性皮膚炎の疾患では「どのような目的に利用されているかについて」78.0%、「第三者に利用されていないかについて」69.1%、「誰が情報やデータを扱っているかについて」65.1%、「何の情報が収集されているかについて」54.7%、「どのように内部で管理されているかについて」54.4%、「コンピュータのハッキングや不正アクセスに対して防禦対策があるかについて」47.4%、「保管された情報が間違っていないかどうかについて」29.1%、その他0.6%であった。

喘息の疾患では「どのような目的に利用されているかについて」77.7%、「第三者に利用されていないかについて」66.4%、「誰が情報やデータを扱っているかについて」62.6%、「何の情報が収集されているかについて」61.3%、「どのように内部で管理されているかについて」58.0%、「コンピュータのハッキングや不正アクセスに対して防禦対策があるかについて」45.0%、「保管された情報が間違っていないかどうかについて」32.4%、その他0.8%であった。

胃がん・乳がん・大腸がんの疾患では「どのような目的に利用されているかについて」71.7%、「第三者に利用されていないかについて」65.7%、「誰が情報やデータを扱っているかについて」63.6%、「何の情報が収集されているかについて」54.5%、「どのように内部で管理されているかについて」51.5%、「コンピュータのハッキングや不正アクセスに対して防禦対策があるかについて」38.4%、「保管された情報が間違っていないかどうかについて」35.4%、その他1.1%であった。

疾患別の比較では、いずれの疾患においても「どのような目的に利用されているかについて」が一番にあげられ、次に「第三者に利用されていないかについて」が続いていた。

### 1.3.20 プライバシーポリシーの必要性について

インターネットを利用して医療機関や企業が、個人の医療（健康）情報を取り扱う場合、個人情報の取得方法や管理方法に関して、個人情報の取り扱い方針を作成し、これをウェブサイト上で利用者に告知する、いわゆるプライバシーポリシーについて、その必要性を尋ねた問いに対し、疾患別に集計した回答結果を以下に記す。

高血圧の疾患では「プライバシーポリシーは不可欠である」77.8%、「プライバシーポリシーはできればあったほうがいい」17.9%、「プライバシーポリシーはなくてもいい」2.1%、「よくわからない」2.1%であった。「プライバシーポリシーは不可欠である」と「プライバシーポリシーはできればあったほうがいい」を合わせた割合は、95.7%であった。

糖尿病の疾患では「プライバシーポリシーは不可欠である」78.2%、「プライバシーポリシーはできればあったほうがいい」18.6%、「プライバシーポリシーはなくてもいい」0.5%、「よくわからない」2.7%であった。「プライバシーポリシーは不可欠である」と「プライバシーポリシーはできればあったほうがいい」を合わせた割合は、96.8%であった。

アトピー性皮膚炎の疾患では「プライバシーポリシーは不可欠である」85.3%、「プライバシーポリシーはできればあったほうがいい」12.7%、「プライバシーポリシーはなくてもいい」1.1%、「よくわからない」0.8%であった。「プライバシーポリシーは不可欠である」と「プライバシーポリシーはできればあったほうがいい」を合わせた割合は、98.0%であった。

喘息の疾患では「プライバシーポリシーは不可欠である」82.5%、「プライバシーポリシーはでき

ればあったほうが良い」14.8%、「プライバシーポリシーはなくてもいい」0.4%、「よくわからない」2.3%であった。「プライバシーポリシーは不可欠である」と「プライバシーポリシーはできればあったほうが良い」を合わせた割合は、97.3%であった。

胃がん・乳がん・大腸がんの疾患では「プライバシーポリシーは不可欠である」75.9%、「プライバシーポリシーはできればあったほうが良い」20.4%、「プライバシーポリシーはなくてもいい」0%、「よくわからない」3.7%であった。「プライバシーポリシーは不可欠である」と「プライバシーポリシーはできればあったほうが良い」を合わせた割合は、96.3%であった。

疾患別の比較では、いずれの疾患においても「プライバシーポリシーは不可欠である」と「プライバシーポリシーはできればあったほうが良い」を合わせた割合が95%を超える高い数字を示していた。中でも、アトピー性皮膚炎では「プライバシーポリシーは不可欠である」とする割合が一番高かった。

### 1.3.21 プライバシーポリシーの運用法について

法的な拘束性のないプライバシーポリシーの運用に際して、第三者機関からのチェックや法的な規制の必要性を尋ねた問いに対し、疾患別に集計した回答結果を以下に記す。

高血圧の疾患では「プライバシーポリシーを法的に義務づけるべきである」40.1%、「プライバシーポリシーの策定だけでなく、これを監査・評価する第三者機関の設置が必要である」27.7%、「法的な規制もしくは強制力のあるガイドラインが必要である」25.8%、「プライバシーポリシーの自主的な運用で充分である」6.4%であった。

糖尿病の疾患では「プライバシーポリシーを法的に義務づけるべきである」40.9%、「法的な規制もしくは強制力のあるガイドラインが必要である」33.2%、「プライバシーポリシーの策定だけでなく、これを監査・評価する第三者機関の設置が必要である」20.0%、「プライバシーポリシーの自主的な運用で充分である」5.9%であった。

アトピー性皮膚炎の疾患では「プライバシーポリシーを法的に義務づけるべきである」38.5%、「プライバシーポリシーの策定だけでなく、これを監査・評価する第三者機関の設置が必要である」27.7%、「法的な規制もしくは強制力のあるガイドラインが必要である」26.9%、「プライバシーポリシーの自主的な運用で充分である」6.9%であった。

喘息の疾患では「プライバシーポリシーを法的に義務づけるべきである」45.2%、「法的な規制もしくは強制力のあるガイドラインが必要である」25.1%、「プライバシーポリシーの策定だけでなく、これを監査・評価する第三者機関の設置が必要である」24.3%、「プライバシーポリシーの自主的な運用で充分である」5.3%であった。

胃がん・乳がん・大腸がんの疾患では「プライバシーポリシーを法的に義務づけるべきである」44.4%、「プライバシーポリシーの策定だけでなく、これを監査・評価する第三者機関の設置が必要である」25.0%、「法的な規制もしくは強制力のあるガイドラインが必要である」24.1%、「プライバシーポリシーの自主的な運用で充分である」6.5%であった。

疾患別の比較では、いずれの疾患においても「プライバシーポリシーを法的に義務づけるべきである」が1位となっていた。これに「プライバシーポリシーの策定だけでなく、これを監査・評価する第三者機関の設置が必要である」「法的な規制もしくは強制力のあるガイドラインが必要である」と合わせると、いずれも9割を超えていた。「プライバシーポリシーの自主的な運用で充分である」とする割合はいずれの疾患においても7%以下であった。



### 1.3.22 倫理規範やガイドラインについて

インターネット上で提供される情報やサービスの質を確保するため、情報やサービスの提供者が自主的に定めていく倫理規範やガイドラインについてどう思うかと尋ねた問いに対し、疾患別に集計した回答結果を以下に記す。

高血圧の疾患では「ぜひ必要だと思う」60.5%、「やや必要だと思う」37.1%、「あまり必要だと思わない」2.4%、「必要ない」0%であった。「ぜひ必要だと思う」と「やや必要だと思う」を合わせた割合は、97.6%であった。

糖尿病の疾患では「ぜひ必要だと思う」61.8%、「やや必要だと思う」35.9%、「あまり必要だと思わない」1.4%、「必要ない」0.9%であった。「ぜひ必要だと思う」と「やや必要だと思う」を合わせた割合は、97.7%であった。

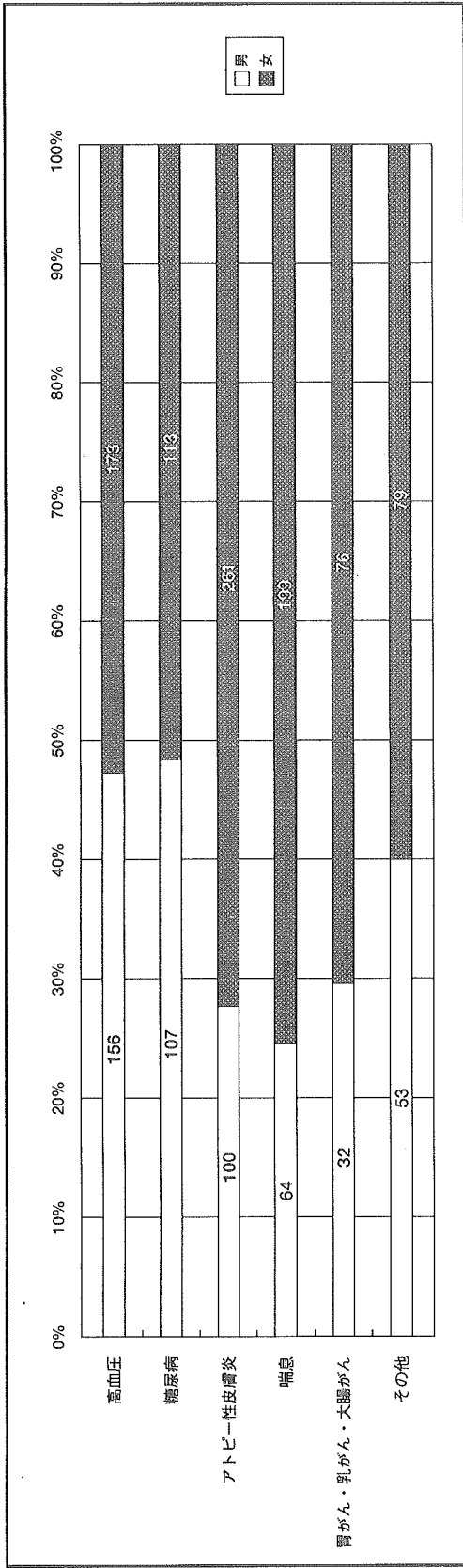
アトピー性皮膚炎の疾患では「ぜひ必要だと思う」64.8%、「やや必要だと思う」33.5%、「あまり必要だと思わない」1.7%、「必要ない」0%であった。「ぜひ必要だと思う」と「やや必要だと思う」を合わせた割合は、98.3%であった。

喘息の疾患では「ぜひ必要だと思う」60.8%、「やや必要だと思う」35.7%、「あまり必要だと思わない」3.4%、「必要ない」0%であった。「ぜひ必要だと思う」と「やや必要だと思う」を合わせた割合は、96.5%であった。

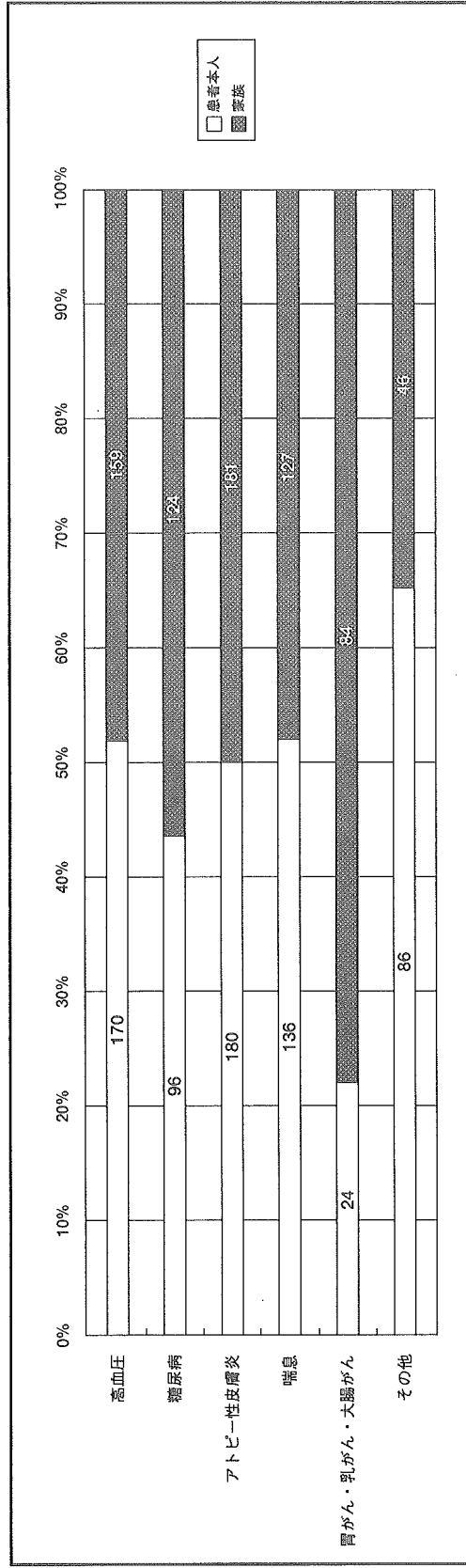
胃がん・乳がん・大腸がんの疾患では「ぜひ必要だと思う」61.1%、「やや必要だと思う」34.3%、「あまり必要だと思わない」3.7%、「必要ない」0.9%であった。「ぜひ必要だと思う」と「やや必要だと思う」を合わせた割合は、95.4%であった。

疾患別の比較では、いずれの疾患においても「ぜひ必要だと思う」が6割以上、また「ぜひ必要だと思う」と「やや必要だと思う」を合わせた割合も95%を超えていて、倫理規範やガイドラインの必要性を感じていることが示された。

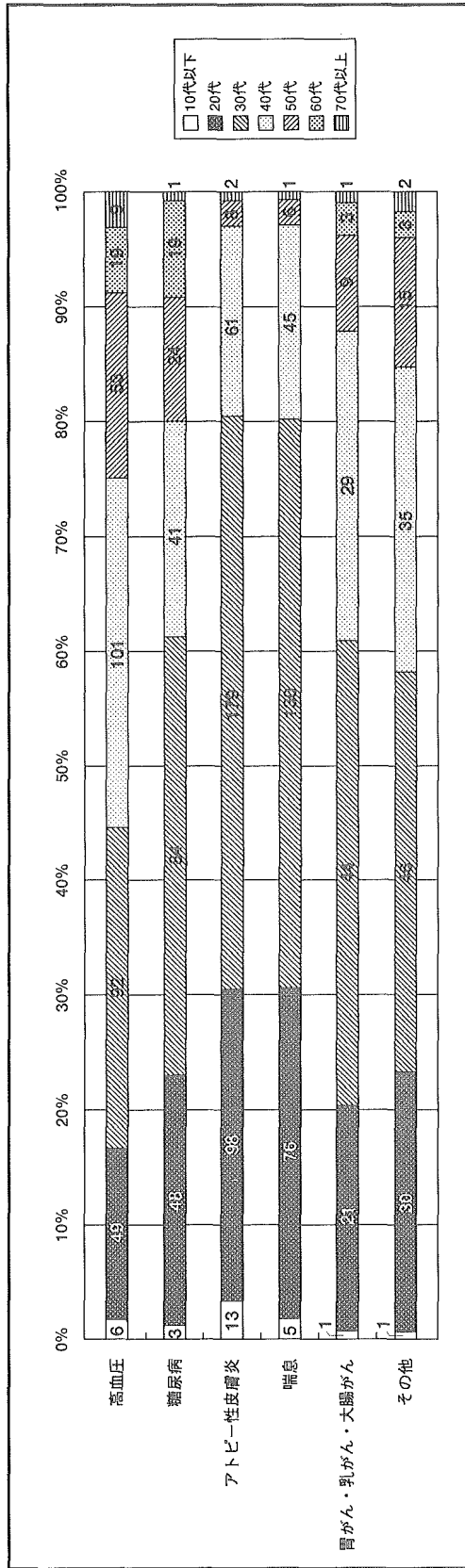
■性別 × 病気の種類



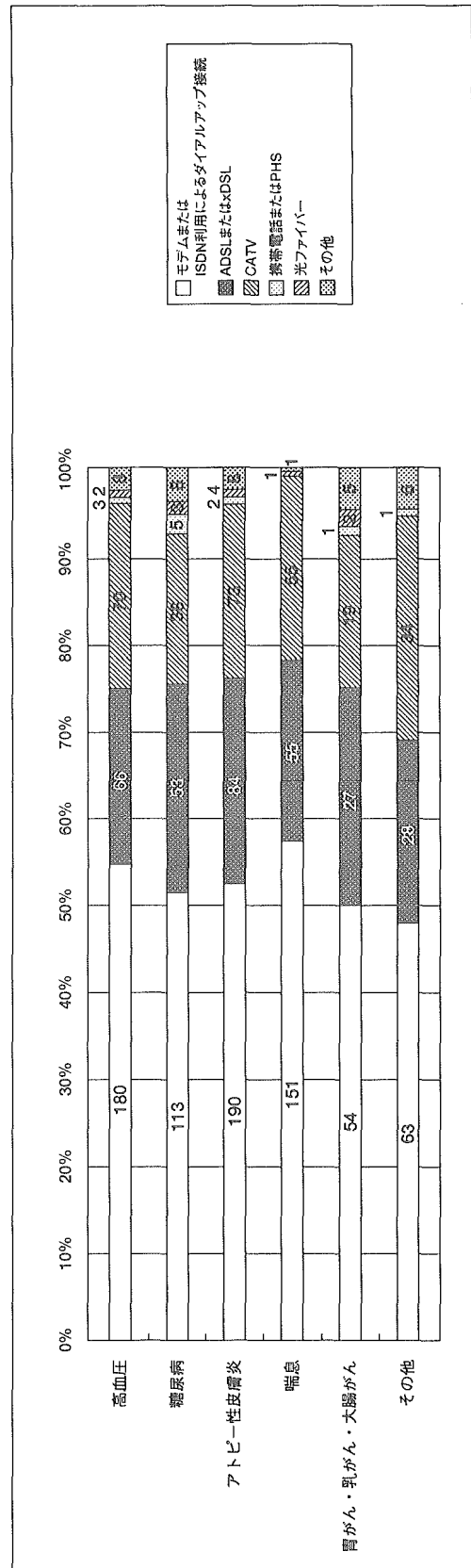
■患者本人・家族 × 病気の種類



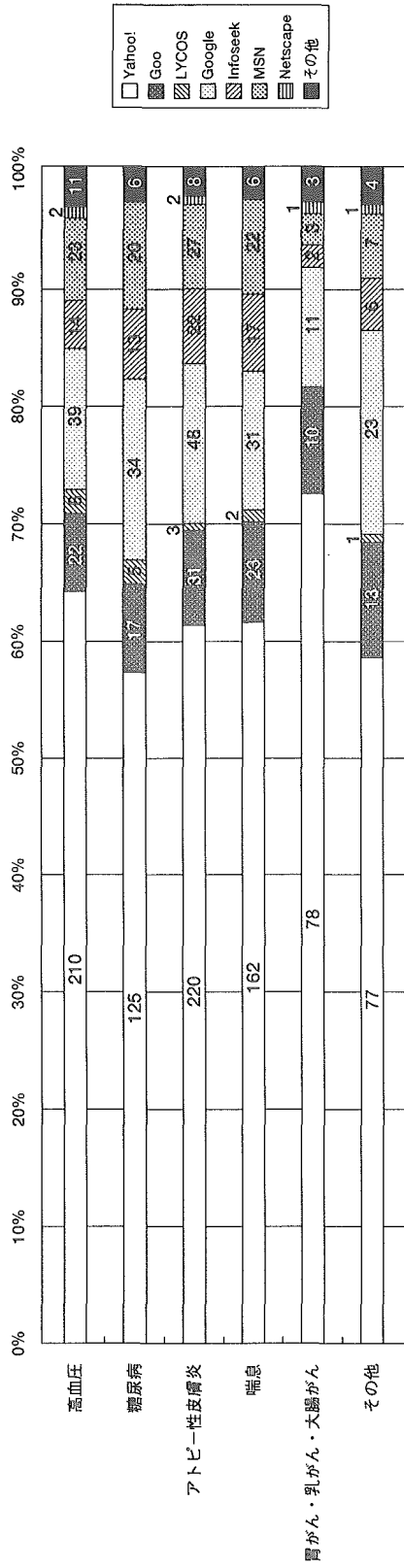
■年代×病気の種類



■問1 インターネットへの接続方法×病気の種類



■問2 医療(健康)情報を検索する時、最もよく利用する検索エンジン×病気の種類



■問3 インターネットを利用して病気や薬などに関する情報をどのくらいの頻度で利用されていますか？  
(掲示板やオンライン会議室は除きます) × 病気の種類

